

研究課題名	気胸合併胸部外傷に対する胸腔ドレナージ挿入部位と機能異常や位置異常の検証
研究責任者名	大学院医系科学研究科 救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗
研究期間	2022年 月 日(倫理委員会承認後) ~ 2030年12月31日
対象者	2012年8月から2021年8月の間に、広島大学救急集中治療科および県立広島病院で胸腔ドレナージによる治療を受けられた外傷に伴う気胸や血胸を発症した患者さん。
目的	胸部外傷に伴う血気胸および気胸に対する胸腔ドレナージは、ドレナージを中腋窩線上から挿入し背側に留置することが推奨されています。しかし、中腋窩線から背側へのアプローチが最適の方法かどうかは明らかではありません。特にショック状態などの挿入前画像評価が困難な胸部外傷患者では、手技前に画像評価による適切な挿入部位の検討が困難です。胸腔ドレナージの機能異常及び位置異常は、再留置や位置調整などを要する原因となり、治療経過に不利益を被る可能性があります。本研究では、気胸合併胸部外傷に対する胸腔ドレナージの機能異常および位置異常に関連する因子を検討します。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は年齢、性別、身長、体重、基礎疾患、内服薬、AIS、ISS、胸腔ドレナージ留置位置、胸腔ドレナージの種類、胸腔ドレナージの太さ、ショック(収縮期血圧90mmHg以下、チアノーゼ、末梢冷感)の有無、機能異常(胸腔ドレナージの位置調整や再留置を要した場合)、位置異常(CT画像上、胸腔ドレナージが胸腔外、皮下、葉間、深すぎる位置にある場合) です。 (個人を特定可能な情報は解析に用いません)
既存試料・情報の提供機関	県立広島病院（責任者：楠 真二、機関の長：板本 敏行）
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 志馬伸朗
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。本院および県立広島病院において、カルテから氏名、住所などの個人が識別できる情報を削除し、誰のものか分からないように加工した情報を使用して解析を行いますので、情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

大学院医系科学研究科研究科 救急集中治療医学

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5456

広島大学病院救急集中治療科 医科診療医 三谷雄己

研究機関：広島大学